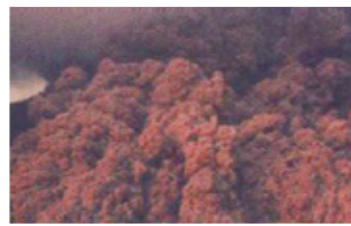


富士山で 想定される 火山現象



溶岩流

溶けた岩石が連続して地表を流れ下る現象。富士山の溶岩は1200℃程度。流れる速度は地形や溶岩の温度などにより異なるが、通常、人が歩く速度よりも遅い。



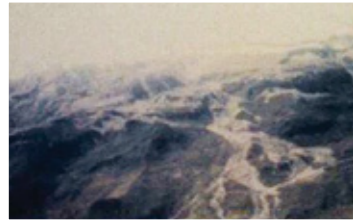
火砕流

大小さまざまな高温の細かく砕けた岩石が周囲の空気を取り込みながら高速で斜面を流れ下る現象。時速100kmを超えることもある。高温の疾風(火砕サージ)を伴う。



噴石

火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石。直径数十cm以上の大きな噴石は弾道を描いて飛散する。こぶし大程度の噴石は風に流されて遠くでも降ることがある。



融雪型火山泥流

火山の斜面に積もった雪などが火砕流などにより溶かされ、火山噴出物と多量の水が混ざりながら斜面を流れる現象。流れる速度は速く、沢沿いを遠方まで流れ下る。



火山灰

噴火により岩石やマグマが細かく砕けたもの(直径2mm以下)。風に乗って広い範囲に広がり、降り積もることがある。降り積もった火山灰は火口に近いほど厚くなる。



土石流

岩石や土砂が降雨により押し出されて一気に流れ下る現象。斜面に火山灰が積もると少量の雨でも発生しやすくなる。速度は時速60km以上に達することがある。



その他の火山現象

噴火の衝撃で空気が振動する「空振」、マグマに溶け込んでいたガス成分が気体となり噴出する「火山ガス」、その他「岩屑なだれ」など様々な現象がある。

富士山噴火による 被害想定が これまでと変わります



山梨県からの お知らせ

発行：令和2年9月17日

山梨県防災局
火山防災対策室



富士山は「活火山」です

活火山とは、「概ね1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」と定義され、この定義に基づき、日本全国で111の活火山が選定されています。さらに、その内の50火山は、今後100年程度以内に噴火が発生する可能性及び社会的影響を踏まえ「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山(常時観測火山)」として選定されており、「富士山」もこの50火山に含まれています。

火が確認されており、平成12年から平成13年にかけては、富士山直下で低周波地震が発生するなどして、富士山は「活火山」として改めて再認識されているところです。また、青木ヶ原樹海の下に広がる広大な溶岩流を噴出させた「貞観噴火」のような大規模な噴火も想定されています。



富士山の真下は、北米プレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートの3つのプレートの接点に当たっていて、押し合いを起している。さらにその下に太平洋プレートが沈みこんでいる極めて複雑な場所にある。

「火山防災対策室」を設置しました

令和2年4月1日、富士山火山防災対策を推進していく拠点として、富士吉田合同庁舎内に「火山防災対策室」を設置しました。



富士山噴火による 被害想定が これまでと変わります

山梨県
山梨県防災局防災危機管理課火山防災対策室
〒403-0005 富士吉田市上吉田1丁目2-5
TEL:0555-24-9036 FAX:0555-24-9038

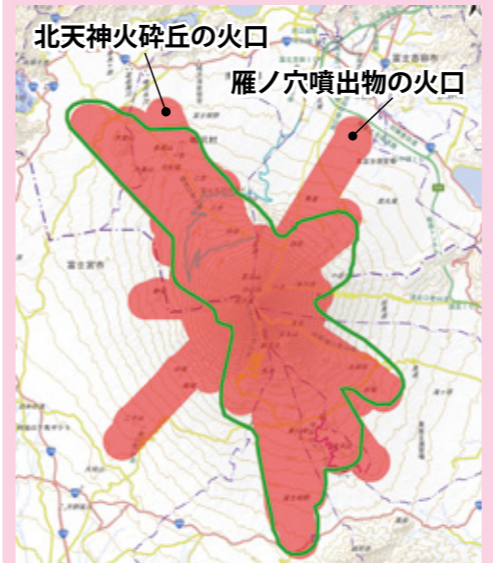
山梨 火山防災対策室

※シミュレーション結果については、各市町村防災担当課室でもお答えします。

FSC
ミックス
FSC® C023103

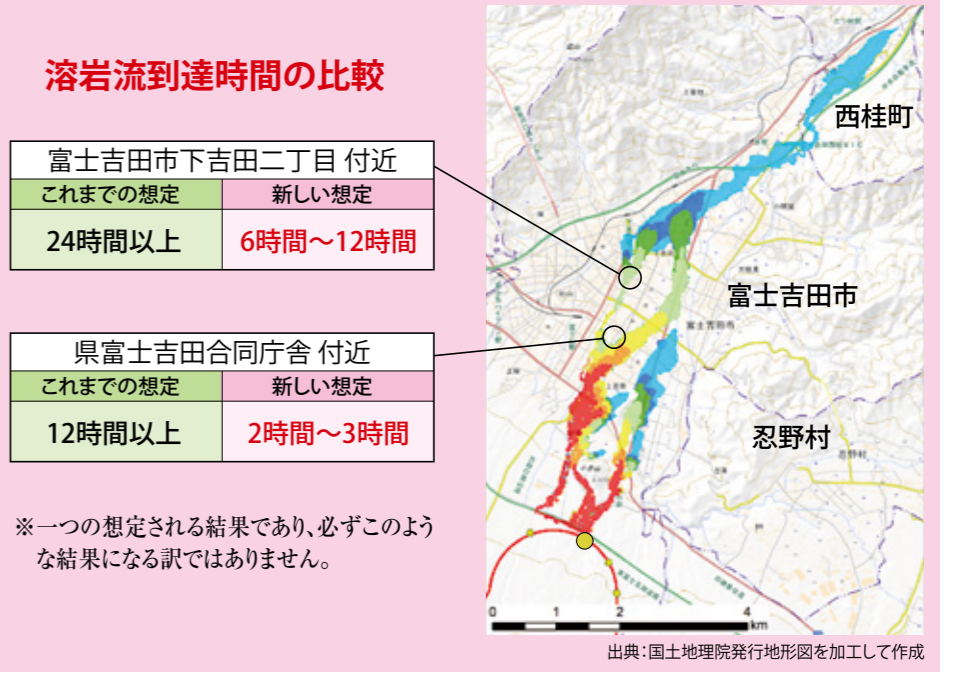
やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、
FSC® 森林管理認証を
取得した山梨県有林からの
木材が使用されています。

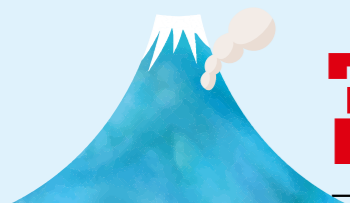
想定火口範囲が拡大しました



▶着色してある範囲が、新しい想定火口範囲です。
▶緑色の実線で示す範囲が、これまでの想定火口範囲です。

これまでの想定より溶岩流が早く到達する地域があります





富士山噴火による新しい被害想定について

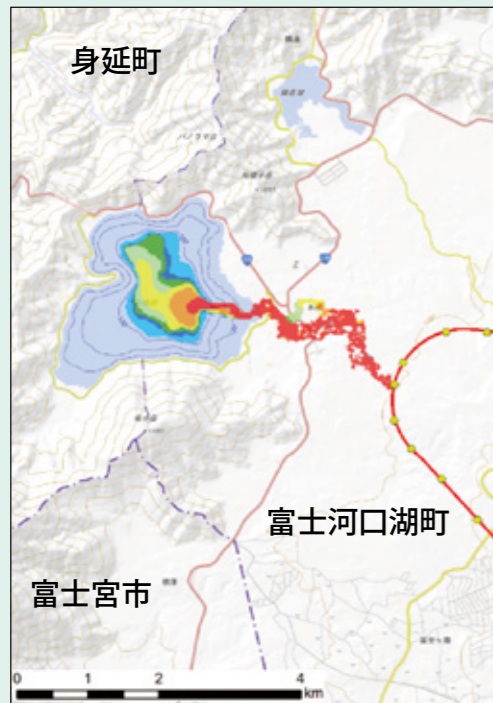
現在、山梨県、静岡県、神奈川県など関係機関で構成される「富士山火山防災対策協議会」では、平成30年度から3年間の予定で、富士山ハザードマップの改定作業に取り組んでいます。

改定作業では、最新の科学的知見に基づき「雁ノ穴火口など新たな噴火口を含む想定火口範囲を設定」「溶岩流、火砕流の噴出規模等の見直

し」などを行い、改定作業2年目の令和元年度末に「小規模噴火の溶岩流」と「火砕流」のシミュレーション結果を公表しました。

今後、県などでは、新しい被害想定に基づいた避難計画等を改定します。完成までの間、仮に噴火した場合でも一人ひとりが積極的な避難行動を取れるよう、新たなシミュレーション結果のご確認をお願いします。

小規模噴火の溶岩流シミュレーション結果(一例)



〈富士河口湖町、身延町 方面〉



〈鳴沢村、富士河口湖町 方面〉

凡例

- 想定火口位置
- 想定火口範囲
- 到達時間
- 0~2時間
- 2~3時間
- 3~6時間
- 6~12時間
- 12~18時間
- 18~24時間
- 24時間以降~6日間



〈富士吉田市、西桂町、都留市 方面〉



〈山中湖村、忍野村 方面〉

※左記は代表例です。
※山梨県に影響のある小規模溶岩流のシミュレーションとして、約40パターンが示されています。
※詳しいシミュレーション結果などについては、県・市町村にお問い合わせください。

◎現在、大規模・中規模溶岩流のシミュレーションを作成しています。今後、公表いたします。

出典：国土地理院発行地形図を加工して作成
出典：富士山ハザードマップ改定に関する令和元年度中間報告 R2.3.30 富士山火山防災対策協議会

- ⚠ 新たなシミュレーションによっては、これまでより、極めて短い時間で溶岩流が市街地に到達し、また、溶岩流・火砕流の到達距離が長くなる可能性があります。
- ⚠ 溶岩流は、非常にゆっくりしたスピードで流れます。生じうる危険を正しく理解し、適切な避難行動が取れるよう、噴火に備えた事前の準備を進めましょう。

富士山噴火に備える上でのポイント

富士山は過去数千年間、平均すると数十年に一度の頻度で噴火を繰り返してきましたが、最近300年以上噴火していません。平均よりも約10倍の長い期間休んでいることになりまから、これから先、いつ噴火してもおかしくありません。それに次の噴火は山頂火口で発生するとは限らず、噴火の予兆が察知できた数時間後には市街地近くに火口が開いて噴火が始まることも考えられます。

今回、小規模溶岩流のシミュレーション結果を公表しましたが、

溶岩流は一般的には人が歩く速さよりもゆっくりと流れます。そのため、避難するときでも追いつかれる心配はほとんどありません。

富士山の麓に暮らす皆様には、噴火のリスクを正しく認識していただくとともに、「富士山が噴火しそうだ」という情報を入手したときに、何をすべきか何が必要になるかを想像し、事前にできる備えを普段から進めていただきたいと思います。家族やご近所とも、しっかりと話し合っておいて下さい。



富士山科学研究所 所長 藤井 敏嗣

プロフィール／山梨県富士山科学研究所 所長、東京大学名誉教授、NPO法人環境防災総合政策研究機構副理事長、環境・防災研究所所長、東京大学地震研究所 所長、東京大学理事・副学長、火山噴火予知連絡会会長を歴任し、現職。専門はマグマ学、火山学。